

市民農園としての取組事例 〔大阪府箕面市〕

1. 地域農業の状況

○ 箕面市は明治の森箕面国定公園を中心にした北摂山系の山なみと、街中のみどりに近接した住宅都市であり、大阪梅田から車で20分程度の都市近郊に位置しながら、市街地と共存する形で田畑が広がっている。

○ 箕面市北部の止々呂美地区では山の斜面を利用して枇杷、栗が栽培されている他、山椒を収穫して塩漬けにしたり、柚子を使った無添加・無農薬のマーマレード等も作られている。

○ しかしながら、担い手の高齢化が進んできており、耕作放棄地も見受けられ、将来、農業を継ぐ後継者に、「貴重な農地」を良好な状態で継承してゆくことが困難になってきている。

○ 箕面市では、農地の荒廃を防止するとともに、市内で生産された農作物を漏らさず販売・消費出来るように学校給食でも積極的に箕面産を取り入れていくために、平成25年4月に市行政組織として、「箕面市農業公社」を設立するなど、積極的な取組を行っている。

〈位置図〉



耕地面積	204ha	総農家数	524戸
田耕地面積	124ha	自給的農家数	325戸
畑耕地面積	80ha	販売農家数	199戸

資料：耕地面積統計（H26年）、2010年農林業センサス（農林水産省）

2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体 NPO法人みのおエコクラブ

再生面積 0.05ha

作付作物 （市民農園として使用）

地区名 新稲（にいな）地区

取組年次 平成22年

販路 （市民農園として使用）

（1）箕面市における市民農園の概況

○ 市民農園のニーズは高く、市内の施設は利用者で満杯状況にあり、待機者についてはJAが窓口となり既設の市民農園の待機者リストを作成し、空きが発生した段階で斡旋を行っている。

（2）当該地区における取組み

○ 市民の農業体験指向が高いことから、市民農園の開設に向け箕面市遊休農地対策協議会が取組を推進し、国の交付金を活用して荒廃農地を市民農園として整備を行い、NPO法人みのおエコクラブが、活動の一環として市民農園の開設に至った。市民農園では、さつまいも、落花生などの栽培が行われている。

【みのおエコクラブの目的】

- 1) イベントや自然体験を通じて環境を考え学びながら友達の輪を作る。
- 2) 樹木を育て自然を愛し、野生動物との共生を実践する。
- 3) ケナフ、カブトムシ、農作物を育て、命の尊さと慈しむ心を育てる。



【再生前】



【再生中】



【再生後】

活用した支援策

H22 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金（国）（再生作業／施設等補完整備）